

農

テーマに
県立大で

「視野広げ成長を」

究の報告、考察についての意見交換があった。

県立大の学生は三種町の農家を手伝い、地域活性化に貢献する活動を報告。他の大学も、農家との交流や農業の機械化の意義、収益の上げられる農業などについて発表した。

県立大と県外で農業を学ぶ大学生らが「農」をテーマに話し合い、意見を発信しようと第1回全国農業系学生フォーラム（県立大、薫風・満天フールド交流塾主催）が4日、大潟村の同大大潟

年、植田行則さん(20)は

全国農業系学生フォーラム

キャンパスで始まった。「同じ目的を持つ学生が

6日は講演と学生の討論会が開かれる。

県立大の薫風・満天フールド交流塾の学生が

中心となり、大学間交流のイベントとして企画。

東京農大や京大農学部な

各大学の活動報告を聞くフォーラム参加者
大潟村の秋田県立大で



北海道大2年の丹野明士さん(20)は「大潟村は北海道のような印象。4日間でのサークルの魅力が吸収できれば」と話した。

6日は午前10時から県立大秋田キャンパスでフォーラムが開かれる。討論会の一部は、会場のアンケートも参考にしてテーマを決めるといふ。

【野原寛史】